

令和4年度 かほく市立大海小学校 学校評価最終報告書

経営目標	主担当	取組内容	評価の観点	達成度判断基準	児童の評価	保護者の評価	地域の方の評価	教員の評価	達成度(判定)	次年度の方向性(改善計画等)	学校運営協議会委員による意見		
1	学習指導部	ア	自分の考えをもち、しっかりと表現できる子を育成するために、教育課程の年間指導計画で関連付けを可視化。週案を活用し、確実な実施に努める。	週案を活用し、教育課程を意識して確実に実施していることを明記する。	教職員アンケートで80%以上				100%	A	・学期ごとに教育課程の見直しを図ることで、カリマネの柱を意識して進めることができた。今後は週案の手立てを共有するなど、全体で学ぶ機会を設けていく。	「自分の考えをしっかりと表現できる子」とは、どんな姿を求めているのか明確にする際に、ICTの活用場面も絡めるとよい。	
		イ	★1人1台端末を生かしたICT教育の実践推進	1人1台端末を活用した授業を計画的に行っている。	児童アンケートで80%以上	96%				A	・「自分の考えをしっかりと表現できる子」の姿を児童と共に明確にするなど、児童も意識できるようにする。	・ICTは、使うことに慣れることから、ねらいに達するためにどのように使っていくべきかを考えていってほしい。	
	GIGA担当			1人1台端末を活用した授業を週に1~2回行っている					89%	B	・授業の中で活用することに教師も児童も慣れてきた。使用後に効果的であったか振り返り、今後につなげていく意識を高めていく必要がある。	→児童はクラスルームやアンケートの機能を活用している。自分から端末を使って調べると、選ぶ姿も見られる。	
	学習指導部	ウ	家庭学習の習慣づけを図る(10分×学年)	学年に応じた家庭学習の仕方が定着し、進んで取り組んでいる。	10分×学年の時間をクリアした割合が90%以上 児童・保護者アンケート「自分で計画を立てている」で80%	95%	84%			A	・家庭学習の習慣は身に付いてきている。今後は「進んで」学習に取り組むよう、自学コンテストや学年間でのノート交流等を進めていく。	・読書の目標は低学年より高学年の方が少ないのはなぜか。→低学年は短い絵本が多くすぐ読めるが、高学年は長い本を読んでいるため少ない。	
学習指導部	エ	読書に親しむ習慣化を図る	週に2回の朝読書や学年に応じた必読書を設定することで、本を読む習慣をつけ、質の高い本を読んでいる。	年間 次の数値以上 低学年は150冊 中学年は100冊 高学年は80冊	96%					A	・質の高い本に親しむことができるよう、必読書を読む取組やじっくり読む時間を設定することや、教師の声かけを継続して行っていく。	・読書アンケートを見ると、5年生が低いかなぜか。個人差なのか、学年差なのか。	
2	生徒指導部	ア	豊かな心をはぐくむ道徳教育の充実を図る	道徳の授業実践を行い、GTを取り入れるなどの工夫をしながら、判断力・実践力を高めるようにする。	S:「道徳の授業で、内容項目について考えている」が80%以上 T:「道徳では、年間指導計画に基づき、計画的に授業を行っている」が100%	97%				100%	A	・伝統文化や郷土に関する単元での授業実践では、GTを招き、判断力や実践力を高められるようにしていく。	→高学年は、主体的に読書に親しむ児童が少なく、必読書の冊数も個人差がある。好きな本を読むことはできるが、質の高い本や難しい本を読む児童は少ない。
		イ	あいさつを通して他者との関わりを持たせる	家庭や地域であいさつする習慣が身についている。学校内でお客さんに出会ったときにあいさつができる。	三者のアンケートの評価の割合が80%以上 児童・教職員アンケートの結果が90%以上	99%	97%	97%	100%	A	・引き続き、あいさつをすることの意味や大切さについて、集会や学活等の機会を活用して、学年に合わせた言葉や方法で指導していく。	・必読書は何冊か。→年間20冊。教科書に出てくる本から選んでいる。	
		ウ	★いじめや問題行動の早期発見・早期対応・事後の確認、継続指導(観察)の徹底	問題行動が起きる前に、児童と積極的に関わり、生徒指導主事を中心としたチーム対応で家庭と連携を図り、問題解決ができるようにしている。	教職員アンケートの結果が90%以上 S:「いじめはどんな理由があってもいけない」と思う」が90%以上 P:「学校のいじめの未然防止や早期発見の取組が伝わってくる」が80%以上	99%	96%			100%	A	・いじめの早期発見、未然防止のため、児童一人一人の様子を細やかに見取っていく。また、家庭との連携、保護者とのより良い関係づくりを大切に、児童の変化や学校での様子について、情報を共有していく。	・あいさつが元気の登校と歩いているが、相手の目を見て、元気が大きくなると心に届く。あいさつの大切さを感じている。低学年からできるようにしてほしい。
3	保健全部	ア	★家庭と連携し、生活習慣の定着を図る(早寝・早起き・朝ご飯、視力低下)	身の回りの清潔に自分で気をつけ取り組んでいる 養護教諭と連携して、食育や視力低下防止の授業や活動を推進している 「早寝・早起き・朝ご飯」、または「視力低下防止」を意識して生活できる。	毎週水曜日の清潔検査で80%以上 児童・保護者アンケート「朝食を毎日食べている」が80%以上 学校独自の「はっぴ〜貯金」の調査で就寝時刻を守ることが5日間のうち4日できたが80%以上	98%	100%			A	・すぐに生活改善にはつながらなくとも、情報発信と共有を継続する。	・れくらく減ったのか。多いときはどのくらいか。減っているのは、勤務時間なのか、仕事の内容なのか。	
		イ	体育授業を核とした体力と運動能力の向上	各学年で、スポチャレに取り組んだり、苦手種目を意識した活動を取り入れている。	教職員アンケートの実施で80%以上	75%					B	・情報発信の方法としては、掲示、配布物、保護者懇談、保健指導、学校保健委員会などを活用し、担任、管理職、養護教諭、いろいろな立場から伝える。	→平均が39Hになっている。多いときは50時間を超える月もあるが、昨年度より減っている。仕事の内容が減ったわけではない。
4	教務部	ア	★業務の軽重、会議や行事の精選を工夫し、組織的運営を推進(「四協」で取り組む)	県全体で行っている勤務時間調査における勤務時間が昨年度を下回る。	勤務時間調査				R4 39h -32%	A	・今後も放課後の研修等を見直したり、特別日課を活用したりしながら、教材研究の時間を確保していく。	→卒業式や入学式は来賓は入れるのか。	
5	教務部	ア	地域素材を生かした学習に積極的に取り組む	総合的な学習や生活科等で地域の素材や人材を生かした授業を行っている。 総合的な学習や生活科等で地域の学習に楽しく取り組んでいる。	教職員アンケートの実施で90%以上 児童アンケートの実施で80%以上	100%			100%	A	・教育課程に照らし合わせながら、学校コーディネーターと調整を行っていく。また、児童にとって達成感のある学びとなるように、事前に目的意識や必要感をもたせる工夫を行う。	→市校長会で、今年度の入学式に準ずると決まった。地域の方は呼ばない。今後はどうなるか分からない。	
		学校CN	イ	「学校運営協議会」の効果的な運用、学校関係者評価を生かした学校経営の実施	家庭や地域との連携に際し、積極的に学校コーディネーターや学校運営協議会を活用している。	教職員アンケートで80%以上 委員アンケートの実施で80%以上				94%	100%	A	・学校運営協議会で出た意見や評価を基に、各分掌で取組を考え実行し、児童の姿や学校評価等で検証できるようにする。